

反対討論

日本共産党神戸市会議員団
赤田かつのり

日本共産党神戸市会議員団を代表して、予算第 29 号・第 30 号議案、第 75 号・第 79 号・第 80 号及び第 85 号議案、第 87 号から第 89 号議案、第 92 号・第 93 号議案の計 11 議案に反対し討論を行います。

第 80 号議案「神戸市の認知症の人にやさしいまちづくり条例の一部を改正する条例の件」は、認知症神戸モデルにかかる経費を、個人市民税の均等割税率の特例の延長という市民増税でおこなうものです。

そもそも、市長は、この制度がはじまる際には、「時限を区切って、この個人市民税の上乗せとなる超過課税を市民の皆さんにお願いをしたい」としていました。

ところが、本議案は 2 度目の延長で、9 年間超過課税を強いるものです。市長は、時限を区切って、超過課税をやめるべきです。

当局は「認知症は誰もがなりうる可能性があり、広く市民が理解を深め取り組むべき課題だ」と個人市民税の均等割りでの負担を合理化していますが、そもそも均等割りでの負担は、収入が多い方も、少ない方も一律に同額を負担するものであり、税の基本である応能負担の原則から逸脱しているものと言わざるを得ません。また、今後の受診者の増加、新薬の進展など医療の高度化を踏まえると、さらなる増税・市民負担の強化が懸念されます。

一方で、神戸エンタープライズゾーンにおける市税の特例措置により、僅か 100 社前後の企業の誘致のために、毎年 1 5 億円程度の固定資産税・都市計画税・事業所税の軽減を神戸市は行っています。「誰もがなり得る」認知症対策に、僅か 3 億円を一般財源ではなく、増税に頼るやり方には道理がありません。

物価高騰が市民のくらしを大変にしている折に、市民負担を継続するべきではありません。

第 87 号議案「土地売却の件」は、市民からの根強い懸念と批判の声を押し切って、大学誘致のために王子公園を売却するものです。この間、「大学誘致ではなく、王子公園・王子動物園の充実をもとめる」署名は 7 万人を超え、また「王子プールをなくさないで」署名も 2 万人を超え、あわせて 10 万人近くの方が王子公園再整備計画に批判と懸念の声をあげています。

また、王子公園は阪神・淡路大震災の際に市民の命を救う防災拠点となりました。来年は、阪神・淡路大震災から30年となる節目の年です。その節目を目前に控え、過去の災害で果たした役割を全く考慮もせず、売却することは許されません。

同時に、王子公園は、原田の森として、地域の景観を守り、憩いの場として、市民に愛されてきました。

「神戸市緑の基本計画 グリーンコウベ21プラン」に記載されているように、「戦災により焦土となった神戸市の復興を期するため、1946年から戦災復興土地区画整理事業が積極的に進められ…王子公園…など現在の骨格的な公園の大半が都市計画に定められ、整備されました。」とされています。まさに、先人たちが築きあげてきた歴史を断ち切るのが、今回の土地売却です。

今からでも、王子公園再整備計画は中止し、王子公園の切り売りをやめるべきです。

以上、同意できない主だった議案について述べました。議員の皆様のご賛同をお願いし、反対討論といたします。